

住民主導型地域活性化事業の成果報告会

8/5

地域の課題を住民の皆さんが考え解決していく活動を市が支援する「住民主導型地域活性化事業」の平成25年度の成果報告会を市コミセンで行いました。市内8地区の代表者などが、地域の特性を生かして取り組んだ成果を発表。出席した皆さんは真剣に耳を傾けていました。



←各地区の代表者などが活動内容を報告しました

地域の特性を生かした事業を報告

新幹線新大村駅(仮称)周辺地域まちづくり計画策定

8/8

平成34年に開業予定の九州新幹線西九州ルートに設置される「新大村駅(仮称)」周辺のまちづくりについて、その方向性をまとめた「まちづくり計画」を策定しました。新幹線の開業効果を最大限に生かすため、この計画を基に市全体のまちづくりを進めていきます。



←「新大村駅(仮称)」周辺の整備イメージ

新幹線の開業効果を最大限に生かすために

県知事に要望書を提出

7/18

市長をはじめ、市議会議員や地元選出県議会議員などが県庁を訪れ、県知事に対し要望書を提出しました。今回は8項目を要望。そのうち、新幹線新駅周辺地域のまちづくり、キリスト教関連遺産の活用と保全、国道34号大村-諫早間の4車線化などの3項目を重点的に要望しました。



←県庁を訪れ、要望書を手渡す松本市長

県の施策について要望活動

消化ガス発電事業発電開始式

7/31

浄水管理センターから発生する消化ガスを利用した発電事業の設備が完成し、発電が始まりました。この事業は、下水処理で発生する消化ガスを事業者へ売却し、事業者が設置する設備で発電するもので、年間約190万キロワット、約500世帯分の電気を賄うことができます。



←発電開始式で設備を起動させました

「消化ガス発電事業」がスタート



ホームステイ (異文化交流)

私は大学生の頃、米国スタンフォード大学の交換留学生として、3か月間ホームステイをしました。日本語が通じないサンフランシスコのご家庭でお世話になり、積極的に小学校や企業を訪問し、多くの人とお会いする機会を持つことができました。短い留学期間ではありましたが、多くのことを学び、私の人生に大きく影響を与えたことは間違いありません。

異なる文化を持つ国の人々と、時間や場所を共有して異文化に触れ、体験することは、新たな発見と刺激に満ちており、生涯心に刻まれることでしょう。できれば、まず日本の歴史や文化を学び、その素晴らしさを相手に伝えられれば、さらに得るものが多いと思います。

本市では、姉妹都市であるポルトガル共和国のシントラ市、米国のサンカルロス市と、学生をお互いに受け入れるホームステイ事業を行ってきました。この夏も、5人の学生をうちの姉妹都市へ派遣し、またサンカルロス市から4人の学生がやってきました。市内のホストファミリーの家庭で楽しく過ごしました。これからの生き方に影響を与えるような貴重な体験ができたのではないかと考えています。帰国した後も、メールのやり取りなど家族ぐるみで交流をしているようで、大変うれしく思っています。

今後、国際交流事業については、これまで以上に多くの市民と外国人の交流が身近にできるように、中心市街地の中に国際交流プラザを開設できるように準備しています。このような取り組みをきっかけに、市民レベルでの国際交流がさらに広がっていくことを期待しています。